

特集

# キャッチアップ<sup>o</sup>精巣腫瘍

## 今、知っておくべき進歩

### 企画にあたって

精巣腫瘍はわが国では希少がんに分類され、エビデンスに乏しい領域もありますが、泌尿器科医にとって重要な疾患であり、日頃から最新の情報に触れておく必要があります。本誌では2016年の精巣腫瘍の特集（70巻7号「進行期精巣腫瘍の診療—難治症例に挑む」）以来、8年振りに臨床家が知っておくべき知識をアップデートする企画となります。この間、診断・治療に多くの進歩がありました。

本年2月には、『精巣癌診療ガイドライン2024年版』が発刊され、ガイドラインが9年振りに随分とアップデートされました。本特集では、精巣腫瘍の病理、画像診断、手術、薬物療法、放射線療法について、それぞれを担当された改訂委員会の委員の先生方にオーバービューをご解説いただきました。さらに、トピックスとして、ガイドライン改訂委員会委員長の河合弘二先生には、改訂のポイントをまとめていただきました。

そのほか、最近発表された論文の中で興味深いものとして、精巣腫瘍の原因となる遺伝子変異、欧州泌尿器科学会の精巣癌ガイドラインにおけるセミノーマの予後因子、進行性胚細胞腫瘍の予後分類として用いられるIGCCC分類のアップデート、予後良好な進行性セミノーマの化学療法、シスプラチン誘発神経毒性の臨床的およびゲノムワイド解析、日本からの発信である精巣がんサバイバーにおける経済毒性とQOLの関連性について、精巣癌診療のエキスパートの先生方に取り上げていただき解説いただきました。非常に新しい、興味深い内容となっております。

本企画が読者の皆様にとりまして、日々の精巣癌診療に少しでもお役に立てば、企画者にとりまして、この上ない喜びです。

福島県立医科大学医学部  
泌尿器科学講座

植村 元秀